

甲 第 号

若林 大 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	鶴屋 和彦
論文審査担当者	委員	教授	笠原 敬
	委員(指導教員)	教授	笠原 正登

主論文

Novel Pathological Implications of Serum Uric Acid with Cardiovascular Disease Risk in Obesity.

肥満症の心血管病リスクにおける血清尿酸の新たな病態的意義

Dai Wakabayashi, Sayaka Kato, Masashi Tanaka, Hajime Yamakage, Hisashi Kato,

Toru Kusakabe, Naoki Ozu, Shu Kasama, Masato Kasahara, Noriko Satoh-Asahara.

Diabetes Research and Clinical Practice 2023 Nov; 205: 110919.

論文審査の要旨

申請者は、肥満症患者 335 例を対象に、5 年間の追跡により、血清尿酸値と心血管疾患（CVD）イベント発症の関連性について検討し、女性の肥満症患者における高尿酸血症は、CVD 発症の新たな危険因子であることと、尿酸値高値のみならず尿酸値低値においても、男女ともに CVD 発症リスクの上昇傾向を示したことを報告した。

公聴会では、高尿酸血症が CVD 発症のリスクとなるメカニズムについての質問に対して、高尿酸血症の病態は、尿酸の生合成に働く XOR 活性が促進され、尿酸が生体内に過剰に産生され、酸化ストレスと炎症が惹起され、血管内皮機能に有害な影響を及ぼすことで CVD 発症リスクが上昇すること、また、低尿酸血症の CVD リスクとの関連については、低尿酸血症では尿酸の抗酸化作用が減弱し、本来の尿酸が有する抗酸化作用が発揮されなくなることが推察される点と低尿酸血症による血管内皮機能低下や糸球体ろ過量の低下の関与が考えられること、本研究が肥満症患者を対象としている理由については、先行研究で肥満症患者を対象とした研究がなく大変興味深い研究になると考えたことなど、全ての質問に対する確かな回答が行われた。さらに、一般住民と肥満者間の相違点について、対象者の相違に大きな差異はない可能性について言及した。

以上より、主論文の内容、公聴会での発表・質疑応答、参考論文と併せて、審査委員すべてが適と判断し、医学博士の学位に値する研究であると考えます。

参 考 論 文

1. Glutathione-S-transferase P-form dependent chlorambucil resistance in Yoshida rat ascites hepatoma cell lines
Miyamoto K, Wakabayashi D, Minamino T, Nomura M. Cancer Lett. 1994 Apr 1;78(1-3):77-83.
2. 論文タイトルを記載してください。
著者名、掲載雑誌名等を記載してください。記載にあたっては、留意事項を参照してください。

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに臨床実証医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年3月5日

学位審査委員長

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦

学位審査委員

感染病態制御医学

教授 笠原 敬

学位審査委員(指導教員)

臨床実証医学

教授 笠原 正登